

令和 4 年 6 月 23 日現在

機関番号：12102

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2021

課題番号：18K12580

研究課題名（和文）都市空間の空虚化と居住環境における不平等の拡大に関する国際比較研究

研究課題名（英文）International comparative study on an increase in disparities in living conditions

研究代表者

久保 倫子 (Kubo, Tomoko)

筑波大学・生命環境系・助教

研究者番号：00706947

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、日本の都市で拡大する空間の空虚化にともなう居住環境の不平等という喫緊の課題を解決に導くため、理論面の整理、北米および日本の都市における実態調査と成果の比較を行った。研究期間中には、フルブライト・ジャパンの研究者プログラムに採択され、イリノイ大学シカゴ校に1年間滞在する機会を得て、現地の権威らとの議論を深めたり、関係主体へのインタビュー調査を飛躍的に進めることができた。英文書籍2冊をはじめとする研究業績に加え、令和3年度文部科学大臣表彰若手科学者賞やInternational Geographical Union Early-Career Award 2022を受賞した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

東京大都市圏では、発展する都心と高齢化の進展にともなう空き家の増加や居住環境の悪化に直面する郊外との間で格差が拡大している。同様に、富裕層の居住地と化す都心と貧困の集積する郊外との分断は、北米都市の多くで報告されている実態である。本研究は、こうした大都市圏内の格差拡大に関して、各地の取り組みを調査し、日本に援用可能な仕組みを導くことを目的にフィールドワークと比較研究とを蓄積した。その成果は、学術論文、書籍、市民講座などを通じて幅広く公開した。また、これらの成果を評価して、令和3年度文部科学大臣表彰若手科学者賞、国際地理学連合（IGU）Early-Career Award 2022を授与された。

研究成果の概要（英文）：This study aimed to establish solution strategies to overcome an increase in disparities in living conditions in Japanese and North American cities. After examining related theories, we conducted intensive field surveys in Tokyo and Chicago to make a comparison and to establish solution strategies which is applicable to Japanese cities.

As a Fulbright scholar, we stayed at University of Illinois at Chicago in 2018-2019 to conduct field survey. Thanks to this opportunity, we could publish many papers including two books and awarded by The Commendation for Science and Technology by the Minister of Education, Culture, Sports, Science and Technology (The Young Scientists' Award 2021) and International Geographical Union (Early-Career Award 2022).

研究分野：都市地理学

キーワード：格差拡大 都市分断 縮退都市 東京大都市圏 シカゴ

1. 研究開始当初の背景

戦後、日本の住宅制度では、住宅の量的充足を目指して核家族世帯による持家取得を促進することに重きが置かれてきた。これにより、1960年代から全国的に郊外での住宅地開発が進められ、人々は「住宅すごろく」の上がりを目指して郊外の戸建住宅地に転入して行った。しかしながら、2000年代以降の住宅政策の転換や人口動態の変化など社会経済状況の変化が進む中で、既存の住宅制度では対応しきれない課題が顕在化するようになってきた。たとえば、郊外住宅地では居住者の高齢化とそれともなう居住環境の悪化が問題化してきている。即ち、第一世代の高齢化と第二世代の離家とが進行し、空き家の増加やコミュニティの衰退が顕著となることで、ゴーストタウン化する地区もでてくるという。特に、東京大都市圏では、1990年代以降の都市開発の方針やネオリベラルな政策の影響を受け、人口増加や活気に満ちた地区と新規投資のなされず空虚な空間が拡大する地区とに明暗が分かれるようになっている。

都市内部で空虚な空間が拡大し居住環境の不平等が問題視される現象は、日本だけではなく、グローバリズムの進展に伴う格差や放逐の拡大⁶⁾、もしくはスラム的空間の拡大の問題として欧米都市での研究蓄積がなされる問題である。日本の都市における郊外住宅地の衰退をスラム的空間の拡大とみなし、都市内部に空虚な空間が拡大することを居住環境や持続性の脅威とする論考もあり、世界共通の都市問題である。空虚な空間や居住環境上の不平等の拡大は、グローバル化と高度な都市化が進展した現代都市が抱える共通課題であり、新たな都市居住問題といえる。しかし、これは、地域性の強い不動産市場の特性に起因するものから、国際的な経済状況まで、様々なスケールで複雑な要因が絡み合って表出する現象であり、既存の手法でとらえるには限界がある。そこで、特定の都市における複雑な地域問題を総合的に分析できる地理学的手法を用いて本問題を分析し日本と比較することで、持続的で適切な居住環境の実現を目指そうと考えた。

2. 研究の目的

本研究は、日本の都市で拡大する空間の空虚化ともなう居住環境の不平等という喫緊の課題を解決に導くため、以下の手順で研究を進める。

- 1) 都市での居住環境の不平等拡大について、権威との議論によりその実態を整理する。
- 2) 地理学を中心に分野横断的な体制により本問題の解決を目指す、北米のネイバーフッド・チェンジ・リサーチ・パートナーシップ (NCRP) の実態と問題点を関係者へのインタビュー調査や統計資料等から明らかにする。
- 3) 同様に、Equity (公正) の概念を取り入れた都市計画策定の過程に研究者が参加し、本課題に取り組むシカゴについて、現地調査により実態と問題点を分析する。
- 4) 以上を踏まえ、日本の都市に応用可能な仕組みを導くとともに、都市内部における居住環境の不平等拡大に関する理論を構築する。

3. 研究の方法

研究代表者がボードメンバーを務める国際社会学会 RC 21 のトロント大会での議論やフルブライトジャパン研究者プログラムによる1年間のシカゴにおける在外研究(イリノイ大学シカゴ校)により、NCRPの取り組みやシカゴにおけるEquityを取り入れた都市政策の立案や多様な主体が関わる都市づくりの実態についてフィールドワークを実施した。

さらに、東京大都市圏の実態を北米都市と比較したうえで、これらの取り組みを日本に援用可能な形にするための道筋を探るため、グローバリゼーションの進展、ネオリベリズムの台頭、起業家的都市政策、20世紀型都市から21世紀型都市への移行といった、北米都市における都市再編にかかわる議論を日本の都市に当てはめて議論した。

4. 研究成果

本研究は、日本の都市で拡大する空間の空虚化にともなう居住環境の不平等という喫緊の課題を解決に導くため、以下の手順で研究を進めるものである。1) 都市での居住環境の不平等拡大について、権威との議論等により実態を整理する；2) 地理学を中心に分野横断的な体制により本問題の解決を目指す、カナダの研究実践と問題点を関係者へのインタビュー調査や統計資料等から明らかにする；3) 同様に、社会的公正の概念を取り入れた都市計画策定の過程に研究者が参加し、本課題に取り組むシカゴについて、現地調査により実態と問題点を分析する；4) 以上を踏まえ、日本の都市に応用可能な仕組みを導くとともに、都市内部における居住環境の不平等拡大に関する理論を構築する。

1年目は、先行研究の整理と本研究の枠組みの構築を行い、国際学会で理論面および日本での研究事例の報告を行った（SASE 大会、国際社会学会トロント大会、国際地理学連合地域大会、同都市地理学コミッション大会等）ほか、論文等にその成果を掲載した。また、国際社会学会のハウジング・建造環境研究コミティーのメンバーや、縮退都市論に取り組む各国の研究者との議論や意見交換を行った。国内外で研究関心が近い研究者とのネットワークを構築することができ、2年目以降の現地調査や国際学会等での共同セッション運営、共同研究に向け、具体的に議論できた。

2年目は手順の1)~3)に注力して研究に取り組んだ。まず、フルブライトジャパンの2018-2019年奨学生（研究者プログラム）としてイリノイ大学シカゴ大学へ滞在したことで、現地での研究を進めることができた。英文の書籍を2冊出版し、そのうち単著は、シカゴにおける現地研究者との議論の成果である。さらに、査読つき雑誌論文を2編、査読なし雑誌論文を3編発表した。国際学会における査読付きの発表を3回行ったが、そのうち1回はセッションの企画・運営に携わり、参加者との議論を深めた。また、欧州の共同研究者からの依頼により、国際誌に書評を1編発表した。タフツ大学に所属する共同研究者からの招聘により講演会を行うなど、北米各地の地理学者や都市計画家との研究交流を進めた。先述のロシアの共同研究者を含め、欧州の研究者とも建設的な議論を行い、研究交流を深めてきた。

3年目は、北米都市における集中的なフィールドワークを実施する予定であったが、感染症拡大の影響で渡航できなかったため、文献調査および国内でのフィールドワークを実施した。具体的には、社会的公正性に近接した概念を含め、政策および哲学等の文献から研究枠組みの再構築を図るとともに、それに適した分析手法を導いた。研究成果としては、まず、オンライン開催となった、国際社会学会の支部大会において、これまでの研究成果を発表した。経済地理学会の地方大会において、都市のスポンジ化に関する発表を行った。次に、東京大都市圏における都市変化の要因と分断都市化の実態について、英語の書籍をSpringerより出版した。さらに、日本の郊外住宅地における高齢化、空き家化、居住環境の悪化がどのように高齢居住者の生活に影響するかについて、日本語および英語での論文を発表した。

全体を通じて、都市空間の空虚化や居住環境の不平等拡大の実態を明らかにするため、イリノイ大学シカゴ校に2018年10月~2019年9月まで滞在し、現地調査を行った。また、そこでの権威らや現地関係者へのインタビューを踏まえ、東京大都市圏における実態について、理論化を行った。グローバリゼーションの進展にともなう都市政策や都市開発手法の変化により、多くの都市が不平等の拡大を経験し、さらに交通結節点に諸機能が集積する都市構造への変化を遂げた。シカゴでは、社会経済階層による分断が進み、社会的公正性の観点を重視した総合的都市計画が策定された。交通環境の改善と健康問題の解決により、誰もが居住地による不利益を被らない都市圏づくりが進められていた。一方、東京大都市圏においては、高齢化の進展と居住環境上の不平等が拡大し、発展する都心部と衰退する外部郊外の差異が2000年以降顕著となっていた。外部郊外では、空き家増加や高齢化にともなうサービスの低下が顕著となるなか、高齢者の孤立を防ぎ、自立した生活を維持できるよう、行政・福祉関係団体・住民組織が働く事例が目立った。しかし、こうした対症療法的な対策では、本問題の解決は難しく、制度面の改変や家・家族・福祉の相互関係の変化を踏まえたサービス供給など、根本的な解決が求められる。

本研究の成果として、以下の書籍や論文を出版した。国際誌を含む査読付き論文を3編、その他の論文を6編、国際誌における書評を2編、英文単著を含む書籍を2冊と2編、国際学会における発表を15回、国内学会における発表を1回行った。これらの一連の成果に対して令和3年度文部科学大臣表彰 若手科学者賞、International Geographical Union Early-Career Award 2022を受賞した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計13件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 久保倫子	4. 巻 67(2)
2. 論文標題 空き家問題からみた地方都市のスポンジ化とその対応	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 経済地理学年報	6. 最初と最後の頁 118-124
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Masaki, A. and Kubo, T.	4. 巻 17
2. 論文標題 Does the introduction of bus rapid transit affect car use? Travel mode choice among highincome households in Bogota, Colombi	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Tsukuba Geoenvironmental Sciences	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久保倫子	4. 巻 113
2. 論文標題 東京大都市圏のハウジング概観：都市地理学の視点から（特集 大都市における都市住宅の量と配置を考える）	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 都市住宅学	6. 最初と最後の頁 4-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tomoko Kubo, Nobuhiko Komaki, and Kensaku Tanaka	4. 巻 87
2. 論文標題 Challenges in enabling aging-in-place initiatives in aging and shrinking Japanese cities: a case of the Gifu suburbs	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 BAGE	6. 最初と最後の頁 1 - 44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.21138/bage.2993	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 久保倫子・駒木伸比古・田中健作	4. 巻 15
2. 論文標題 岐阜市郊外住宅地における高齢者の居住実態からみた住み続けられる居住環境実現への課題 岐阜市K地区の事例 - .	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 都市地理学	6. 最初と最後の頁 76-90
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tomoko Kubo	4. 巻 36
2. 論文標題 A Review of "Housing in post-growth society: Japan on the edge of social transition."	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Housing Studies	6. 最初と最後の頁 1-2
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/02673037.2021.1858528	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久保倫子・駒木伸比古・田中健作	4. 巻 15
2. 論文標題 岐阜市郊外住宅地における高齢者の居住実態からみた住み続けられる居住環境実現への課題 岐阜市K地区の事例	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 都市地理学	6. 最初と最後の頁 76-90
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大塚俊幸・久保倫子	4. 巻 52
2. 論文標題 名古屋大都市圏郊外における住宅供給と新設戸建住宅居住世帯の居住選好 岐阜県可児市周辺を事例として	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本都市学会年報	6. 最初と最後の頁 131-140
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久保倫子	4. 巻 2019-2
2. 論文標題 空き家問題の背景と発生要因	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 統計	6. 最初と最後の頁 36-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久保倫子	4. 巻 2019-2
2. 論文標題 タワーマンションが示す成長と衰退の様相	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 建築雑誌	6. 最初と最後の頁 19-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tomoko Kubo	4. 巻 19-4
2. 論文標題 A review of "Neoliberal urbanism, contested cities and housing in Asia", Edited by Yi-Ling Chen and Hyun Bang Shin	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 International Journal of Housing Policy	6. 最初と最後の頁 601-603
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/19491247.2019.1654288	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久保倫子	4. 巻 2019 (2)
2. 論文標題 空き家問題の背景と発生要因 .	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 統計	6. 最初と最後の頁 36-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久保倫子	4. 巻 2019 (2)
2. 論文標題 タワーマンションが示す成長と衰退の様相	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 建築雑誌	6. 最初と最後の頁 19-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計16件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 15件)

1. 発表者名 Tomoko Kubo, Yuuki Shimizu, Mao Yaqian, and Yuki Iwai
2. 発表標題 Changes in the Relationship among Family, Housing, and Welfare in Japanese Cities
3. 学会等名 Association of American Geographers 2022 Annual meeting (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yuki Iwai, Tomoko Kubo et al.
2. 発表標題 Changes of Intercity Relations in the Tokyo Suburbs: The Case of Ryugasaki New Town
3. 学会等名 Association of American Geographers 2022 Annual meeting (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yuuki Shimizu, Mao Yaqian, and Tomoko Kubo
2. 発表標題 Analysis on Older adults' daily behavior under the COVID-19 pandemic in Japan: A case of Ryugasaki city in the Tokyo suburbs
3. 学会等名 Association of American Geographers 2022 Annual meeting (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yaqian Mao and Tomoko Kubo
2. 発表標題 Are older female adults really more disadvantaged than their male counterparts? The impact of coupling constraints on everyday life of older adults in China
3. 学会等名 Association of American Geographers 2022 Annual meeting (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kubo Tomoko
2. 発表標題 Disparities in living conditions between city centers and shrinking suburbs: A case study of super-aging and post-growth Japan
3. 学会等名 Urban Sociology ESA RN37 4 Midterm Conference (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kubo Tomoko
2. 発表標題 Perception of and reaction to urban shrinkage in Japanese aging and shrinking cities
3. 学会等名 ISA RC21 Conference (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Mao Yaqian, Tomoko Kubo, and Yuki Iwai
2. 発表標題 Time-geographic analysis of the behavior of older adults living in Tokyo's outer suburbs: Changing relationships among family, housing, and welfare
3. 学会等名 中国行動地理学会議 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Tomoko Kubo
2. 発表標題 Disparities in living conditions between city centers and shrinking suburbs:A case study of super-aging and post-growth Japan
3. 学会等名 ESA RN37 Urban Sociology (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 久保倫子
2. 発表標題 空き家問題からみた地方都市のスポンジ化とその対応
3. 学会等名 経済地理学会 (岐阜地域大会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Tomoko Kubo
2. 発表標題 Divided Tokyo-Uneven urban development and shrinking suburbs-.
3. 学会等名 The 14th Japan-Korea-China Joint Conference on Geography (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tomoko Kubo
2. 発表標題 Housing challenges in shrinking and aging Japanese cities
3. 学会等名 International Cartographic Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tomoko Kubo
2. 発表標題 Gap expansion in terms of living conditions in Tokyo.
3. 学会等名 Urban Affairs Association 49th Annual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kubo Tomoko
2. 発表標題 Expansion of uneven living conditions in Japanese cities.
3. 学会等名 IGU Regional Congress/ CAG Annual Meeting, 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kubo Tomoko. and Otsuka Toshiyuki
2. 発表標題 The growth and decline of Japanese suburban neighborhoods: A case of the Nagoya metropolitan area.
3. 学会等名 IGU Urban Geography commission 2018 Annual meeting (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kubo Tomoko. and Otsuka Toshiyuki
2. 発表標題 The Changes in Housing Condition in Aging Japanese Suburbs: A case of the Nagoya metropolitan area
3. 学会等名 ISA World Congres (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kubo Tomoko
2. 発表標題 An increase in housing vacancies in Japanese aging cities: demography, urban policies, and administrative solutions
3. 学会等名 Society for the Advancement of Socio-Economics mini conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 Tomoko Kubo	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 174
3. 書名 Divided Tokyo-Disparities in living conditions in the city center and the shrinking suburbs.	

1. 著者名 Tomoko Kubo	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 174
3. 書名 Divided Tokyo-Disparities in Living Conditions in the City Center and the Shrinking Suburbs	

1. 著者名 Tomoko Kubo and Yoshimichi Yui	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 175
3. 書名 The Rise in Vacant Housing in Post-growth Japan: Housing Market, Urban Policy, and Revitalizing Aging Cities	

1. 著者名 Abe, K., Kubo, T., and Komaki, N. (Rozenblat, C., Pumain, D., and Velasquez, E. eds.)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Springer Singapore.	5. 総ページ数 p.143-163 (全393頁)
3. 書名 International and Transnational Perspectives on Urban Systems (Advances in Geographical and Environmental Sciences)	

1. 著者名 久保倫子 (矢ヶ崎典隆・森島 濟・横山 智編)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 朝倉書店	5. 総ページ数 p.114-123 (全152頁)
3. 書名 住の持続性を創造するハウジング。「シリーズ<地誌トピックス>第三巻 サステイナビリティ 地球と人類の課題」	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------